

<p>10</p>	<p>バルテス (Baltes, P. B.) は、生涯発達心理学を提起し、①個体の発達は生涯にわたる過程であること、②発達は全生涯を通じて常に獲得（成長）と喪失（衰退）とが結びついて起こる過程であること、③発達には大きな可塑性（可変性）が認められること、④個体の発達は歴史的文化的条件の影響を受けることなどを主張し、発達について新たな視点をもたらした。</p> <p>例えば、老年期は一般的には衰退の時期と捉えられるが、言語的豊かさが増すなど成人期以降も発達を続ける能力もあり、また結晶性知能（過去の経験などに基づく知能）などは、むしろ老年期にこそ最高の状態になる。</p> <p>* 結晶性知能 ⇔ 流動性知能（新しい状況に適応するための知能のことで、加齢により衰えやすいとされる。）</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>11</p>	<p>構成主義（心理学的構成主義）の立場に立つピアジェ (Piaget, J.) は、認知発達を、子どもが外界から得た知識を自分で能動的に構成していくことと捉えた。</p> <p>これに対し、社会的構成主義の立場に立つヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) は、認知発達を、能動的な知識の構成ではなく、社会的なやり取りの中で知識が構成されていくことと捉えた。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>12</p>	<p>ピアジェ (Piaget, J.) は、認識は、人間と環境との相互作用によって構成されるものであると考えた。そして、子どもの外界についての理解は、子どもの認知構造と外界との相互作用によってつくられたものであり、この相互作用を操るのが知能であるとした。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
<p>13</p>	<p>ピアジェ (Piaget, J.) は、子どもの知能発達は直線的ではなく、いくつかの段階を経ており、その区切りごとに異なる認知構造（シエマ＝思考や行動の様式）が生じるとしている。シエマは、繰り返し使用される行為のパターンや、それを生み出す精神構造のことであり、外界を理解するために情報を処理する手段である。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>

<p>25</p>	<p>2歳頃までの子どもは、ある程度大人の言葉による指示に従って行動することはできるが、言葉による制止や中断には従うことができない。3歳頃から言葉による指示通りに行動することができ、自分の言葉でも行動を調整するようになるが、まだ状況に依存することがある。</p> <p>状況に依存することなく、言葉だけで行動を調整することが可能になるのは、5、6歳以降といわれている。</p>	<p><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/></p>										
<p>26</p>	<p>【幼児に特徴的な思考】</p> <table border="1" data-bbox="241 577 1044 1441"> <tr> <td data-bbox="241 577 412 761"> <p>実念論</p> </td> <td data-bbox="412 577 1044 761"> <p>夢で見たものや心の中で思ったことが実際にあると考えるなど、主観的なこと（夢、思考など）が客観性をもち実在するという考えで、ピアジェ (Piaget, J.) は自己中心性の結果と考えた。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 761 412 896"> <p>人工論</p> </td> <td data-bbox="412 761 1044 896"> <p>この世にあるものは、すべて人の手によりつくられたものであり、またつくることができること。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 896 412 1031"> <p>アニミズム</p> </td> <td data-bbox="412 896 1044 1031"> <p>無生物にも人間と同じように生命があり、知覚や感情をもつと考えることで、ピアジェ (Piaget, J.) は自他の未分化により起こるとした。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1031 412 1215"> <p>フェノメニズム</p> </td> <td data-bbox="412 1031 1044 1215"> <p>見かけに惑わされて正しい判断ができないこと。3歳頃に多くみられる。 (例：絵の具入りの水をジュースだと思ってしまうこと)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1215 412 1441"> <p>知的リアリズム</p> </td> <td data-bbox="412 1215 1044 1441"> <p>現実に惑わされて、見かけについて正しく判断できないこと。4～5歳頃に多くみられる。 (例：実際に見えている机の脚は2本であるが、机の脚は4本であるということを知っているために、放射状に4本描くこと)</p> </td> </tr> </table>	<p>実念論</p>	<p>夢で見たものや心の中で思ったことが実際にあると考えるなど、主観的なこと（夢、思考など）が客観性をもち実在するという考えで、ピアジェ (Piaget, J.) は自己中心性の結果と考えた。</p>	<p>人工論</p>	<p>この世にあるものは、すべて人の手によりつくられたものであり、またつくることができること。</p>	<p>アニミズム</p>	<p>無生物にも人間と同じように生命があり、知覚や感情をもつと考えることで、ピアジェ (Piaget, J.) は自他の未分化により起こるとした。</p>	<p>フェノメニズム</p>	<p>見かけに惑わされて正しい判断ができないこと。3歳頃に多くみられる。 (例：絵の具入りの水をジュースだと思ってしまうこと)</p>	<p>知的リアリズム</p>	<p>現実に惑わされて、見かけについて正しく判断できないこと。4～5歳頃に多くみられる。 (例：実際に見えている机の脚は2本であるが、机の脚は4本であるということを知っているために、放射状に4本描くこと)</p>	<p><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/></p>
<p>実念論</p>	<p>夢で見たものや心の中で思ったことが実際にあると考えるなど、主観的なこと（夢、思考など）が客観性をもち実在するという考えで、ピアジェ (Piaget, J.) は自己中心性の結果と考えた。</p>											
<p>人工論</p>	<p>この世にあるものは、すべて人の手によりつくられたものであり、またつくることができること。</p>											
<p>アニミズム</p>	<p>無生物にも人間と同じように生命があり、知覚や感情をもつと考えることで、ピアジェ (Piaget, J.) は自他の未分化により起こるとした。</p>											
<p>フェノメニズム</p>	<p>見かけに惑わされて正しい判断ができないこと。3歳頃に多くみられる。 (例：絵の具入りの水をジュースだと思ってしまうこと)</p>											
<p>知的リアリズム</p>	<p>現実に惑わされて、見かけについて正しく判断できないこと。4～5歳頃に多くみられる。 (例：実際に見えている机の脚は2本であるが、机の脚は4本であるということを知っているために、放射状に4本描くこと)</p>											
<p>27</p>	<p>人は、行動の背後に心の状態があると想像する。例えば、物に手を伸ばしている人を見ると、その人は物を取ろうとしていると解釈する。そのような人の心に関する日常的で常識的な知識を、ハイダー (Heider, F.) は、素朴心理学とよんだ。</p>	<p><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/></p>										

<p>28</p>	<p>他者の知識などを推測することができるのは、「心の理論」をもっているからだと考えられている。</p> <p>「心の理論」は、プレマック (Premack, D.) とウッドラフ (Woodruff, G.) によって提唱された理論で、自分や他者の行動を予測したり、説明したりするために使われる心の働きについての知識や原理のことをいう。「心の理論」をもつためには、人は外から直接観察できないその人なりの内なる世界をもち、外面的な行動は内なる世界によって規定され、制御されているという理解が必要になる。</p> <p>「心の理論」は、ごっこ遊びにみられるように、自分と他者を区別することができる段階から他者の知識などの内容を正しく推測できる段階を経て、幼児期にほぼ形成されるといわれている。</p> <p>自閉症の子どもは、「心の理論」の獲得が困難であるという指摘がある。</p>	<p>□ □ □</p>								
<p>29</p>	<p>「心の理論」を獲得しているかどうかを判断するために、「誤信念課題」がよく用いられる。「誤信念課題」とは、自分はある事実を知っているが、それを知らない他者はどう考えるか、ということを問う課題（実験）をいう。</p>	<p>□ □ □</p>								
<p>30</p>	<p>【ビューラー (Bühler, C.) による遊びの発達の分類】</p> <table border="1" data-bbox="238 1058 1048 1561"> <tr> <td data-bbox="238 1058 426 1193"> <p>感覚・運動的遊び (機能遊び)</p> </td> <td data-bbox="426 1058 1048 1193"> <p>音、動き、色などの感覚刺激を楽しむ遊びや、自分の身体を使って運動機能を働かせて楽しむ遊び。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="238 1193 426 1329"> <p>虚構遊び (想像遊び)</p> </td> <td data-bbox="426 1193 1048 1329"> <p>日常生活において、自分に身近なものを真似することによって楽しむ遊び。ままごと、電車ごっこなど。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="238 1329 426 1464"> <p>受容遊び</p> </td> <td data-bbox="426 1329 1048 1464"> <p>絵本を読んだり、テレビを見たり、音楽を聞いたりして楽しむもので、いわば受身の形で楽しむ遊び。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="238 1464 426 1561"> <p>構成遊び</p> </td> <td data-bbox="426 1464 1048 1561"> <p>ものを構成したり、創造したりすることによって楽しむ遊び。粘土細工、積み木、折り紙など。</p> </td> </tr> </table>	<p>感覚・運動的遊び (機能遊び)</p>	<p>音、動き、色などの感覚刺激を楽しむ遊びや、自分の身体を使って運動機能を働かせて楽しむ遊び。</p>	<p>虚構遊び (想像遊び)</p>	<p>日常生活において、自分に身近なものを真似することによって楽しむ遊び。ままごと、電車ごっこなど。</p>	<p>受容遊び</p>	<p>絵本を読んだり、テレビを見たり、音楽を聞いたりして楽しむもので、いわば受身の形で楽しむ遊び。</p>	<p>構成遊び</p>	<p>ものを構成したり、創造したりすることによって楽しむ遊び。粘土細工、積み木、折り紙など。</p>	<p>□ □ □</p>
<p>感覚・運動的遊び (機能遊び)</p>	<p>音、動き、色などの感覚刺激を楽しむ遊びや、自分の身体を使って運動機能を働かせて楽しむ遊び。</p>									
<p>虚構遊び (想像遊び)</p>	<p>日常生活において、自分に身近なものを真似することによって楽しむ遊び。ままごと、電車ごっこなど。</p>									
<p>受容遊び</p>	<p>絵本を読んだり、テレビを見たり、音楽を聞いたりして楽しむもので、いわば受身の形で楽しむ遊び。</p>									
<p>構成遊び</p>	<p>ものを構成したり、創造したりすることによって楽しむ遊び。粘土細工、積み木、折り紙など。</p>									

4	<p>内発的動機づけに基づく行動に対して外的な報酬を与えることによって、内発的動機づけが低下することをアンダーマイニング現象という。これは、「他者にコントロールされて行動している」「報酬のために行動している」と認識するようになり、自律性が損なわれることによる現象であると考えられる。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
5	<p>記憶は、感覚記憶、短期記憶、長期記憶の3つの貯蔵装置から成り立っている。</p> <p>感覚記憶は、数秒以内で消えてしまう一時的な記憶である。</p> <p>短期記憶は、作業用の一時記憶領域にある数十秒で消えてしまう記憶であり、長期記憶に転送されることにより保持が可能となる。短期記憶概念を発展させたもので、認知的作業を頭の中で行うために、短い時間、ある事項をとどめておく記憶を、特に、作業記憶（ワーキングメモリー）という。</p> <p>長期記憶は、保持が可能となり、いつでも再生できる記憶とされる。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
6	<p>子どもは、7、8歳頃になると、ある事項を短期記憶から長期記憶に転送する方略として、リハーサル（反復して唱えること）を自発的に行うようになる。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
7	<p>一般的な情報の記憶である意味的記憶に対し、「今日どんなことがあったか」というような個人的な出来事や体験に関する記憶を、エピソード記憶という。</p> <p>また、自転車の乗り方、泳ぎ方のように、意識せずに、身体で覚えるような記憶を、手続き記憶という。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
8	<p>子どもが記憶の必要性を自覚して記憶場面の状況を認知するような記憶行動を調整する能力をメタ記憶といい、学童期に入ると、年齢とともに発達する。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
9	<p>学童期中期から後期にかけての時期は、ギャング・エイジ（徒党期）とよばれ、この時期につくられる凝集性の高い仲間集団をギャング集団（徒党集団）という。一方、チャム・グループは、中学生頃の女兒によくみられ、お互いの感覚が同じであり「分かり合っている」ことを確認し、誇示する仲間集団である。どちらも排他的な性質をもつ点で共通する。</p>	<p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>

人名索引

【ア行】

ヴィゴツキー	8, 12, 48
ウィニコット	18, 40
ウォーク	22
エインズワース	16
エリクソン	7, 34, 36, 37

【カ行】

ガードナー	49
カウフマン	37
ギブソン (Gibson, E. J.)	22
ギブソン (Gibson, J. J.)	39
キャンパス	22, 38
ゲゼル	6
ゴールドスミス	38
コールバーグ	33
コンドンとサンダー	20

【サ行】

ジェンセン	6
シャファー	16
シュテルン	6
ショーン	48
スーパー	35
スキナー	13
スターン	22
スピッツ	15